

滋賀・関津遺跡

せきのつ

- 1 所在地 滋賀県大津市関津二丁目地先
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16) 一月～二〇〇五年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 吉田秀則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

関津遺跡は、琵琶湖から流れ出る瀬田川沿いの東側の平野部、田上地区の西南隅の水田地帯、大戸川との合流点の下流に位置する。



(京都東南部)

本遺跡では、二〇〇三年から県営圃場整備事業に伴う発掘調査を実施している。これまでに奈良時代の掘立柱建物と柵列などが検出され、多量の須恵器・土師器とともに緑釉陶器・墨書土器・円面硯・土馬などが出土しており、田上柚との関

係が注目されている。また、鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物・井戸・土坑・溝なども検出している。

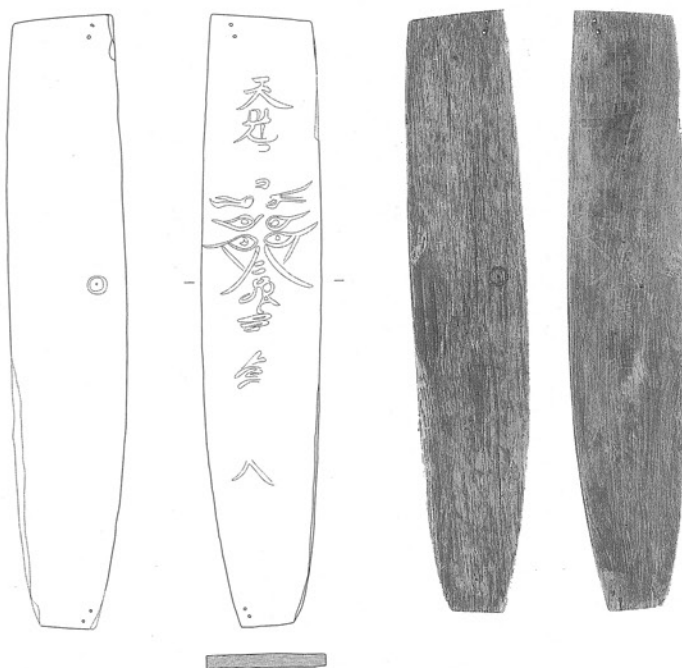
今回紹介する木簡が出土した調査は、国道四二三号線の改良工事に伴うもので、鎌倉時代の土師器・瓦器の皿や椀、白磁や青磁の椀などの輸入陶磁などとともに、呪符木簡・犁・田下駄・下駄その他の加工痕の残る多数の木製品が出土した。出土した土層は、暗茶褐色の粘質土(砂が混じる)の遺物包含層で、葦の根なども含まれている。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「天」(梵字) 〔急急如律令カ〕
 ・「〇」(刻書) 〔刻書〕
 307×59×7 0.61

上端は方頭で、下端は左右を斜めに削り先端を水平にカットしている。表面は、小刀などの加工痕が残る。表面には、墨書あるいは墨書痕が確認できるが、全体に著しい風化を受けている。裏面には、墨書はなく、直径1cmの円と、その中心に点が刻まれている。表面からみて左寄りの上下両端に釘孔が二個一対で穿たれていることから、何らかの転用材が使われたものと思われる。

(吉田秀則)



木簡研究 第二六号

巻頭言―「全国木簡出土遺跡・報告書総覧」刊行に寄せて― 小林昌二
二〇〇三年出土の木簡

概要 平城京跡左京三条三坊十一坪 平城京跡右京北辺 平城京跡右京四條二坊二坪 法華寺 旧大乘院庭園 藤原京跡 石神遺跡 飛鳥寺南方遺跡 鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡 東福寺常楽庵庫裏 中世勝龍寺城跡 難波宮跡(1) 難波宮跡(2) 大坂城跡 九頭神遺跡 奈良井遺跡 玉柳遺跡 久宝寺遺跡 兵庫津遺跡 玉津田中遺跡 北村庵寺 有岡城跡・伊丹郷町遺跡 明石城武家屋敷跡 対中遺跡 入佐川遺跡 清洲城下町遺跡 大毛沖遺跡 土橋遺跡 北条泰時・時頼邸跡 永福寺跡 佐助ヶ谷遺跡 水戸藩徳川家小石川屋敷跡(春日町遺跡第Ⅶ地点) 旗本岩瀬家屋敷跡(新諏訪町遺跡) 竜泉寺町遺跡 台東区No.68遺跡 馬場下町遺跡 元町二丁目遺跡 神明遺跡 北島遺跡(第一九地点) 松本城下町跡六九 松本城下町跡宮村町 樺崎寺跡 荒田目条里制遺構 門田条里制跡 東高久遺跡 荒井猫田遺跡 河股城跡 仙台城跡(二の丸地区) 竹ノ内遺跡 市川橋遺跡 長徳寺前遺跡 古志田東遺跡 大在家遺跡 山形城跡 新谷地遺跡 龍門寺茶畑遺跡 観音堂遺跡 新田(一)遺跡 津輕氏城跡・弘前城跡 本町一丁目遺跡 金石本町遺跡 桜町遺跡 石名田木舟遺跡 順海寺城跡 小杉橋金広・中馬場遺跡 中名Ⅵ遺跡 任海宮田遺跡 道端遺跡 青田遺跡 米子城跡21遺跡 米子城跡 才ノ峠遺跡 青木遺跡 鹿田遺跡 尾道遺跡(KG〇七地点) 徳島城下町跡 観音寺遺跡 敷地遺跡 長門国府跡(宮ノ丸地区) 高松城跡(2)(丸ノ内地区) 高松城跡(3)(松平大膳家中屋敷跡) 雨窪遺跡群 小倉城跡 在自西ノ後遺跡 牟田口遺跡 柏町遺跡(長崎奉行所立山役所跡) 北島北遺跡 平城宮跡 弘田橋跡 一七七七年前出土の木簡(二六) 平城宮跡 弘田橋跡 积文の訂正と追加(七)

山田寺跡(第五・一二・一三号) 宮内黒田遺跡(第二二二号) 弥勒寺西遺跡(第二二五号) 安芸国分寺跡(第二四号) 中央アジア出土のチベット語木簡―その特徴と再利用―

木に記された暦―石神遺跡出土具注暦木簡をめぐって― 館野和己・武内紹人
文字の形と語の識別―「参」の二つの字形― 竹内亮
書評 平川南著『古代地方木簡の研究』 鐘江宏之
新刊紹介 木簡学会編『日本古代木簡集成』 武田和哉

頒価 五五〇〇円 送料 六〇〇円